

新奇ナノカーボン誘導分子系に関する国際ワークショップ報告

2016年5月17日に、東北大大学(仙台)で International Workshop on Fundamental and Applied Research of Novel Nanocarbon Derivatives: Toward Bottom-Up Approach to Nanotechnology Era が開催されました。このワークショップは、2016年4月に発足した東北大大学の学際研究重点拠点「新奇ナノカーボン誘導分子系基盤研究開発センター」が主催した第1回目の国際ワークショップです。ナノカーボンに関する国内外の著名な研究者が集まり、最新の研究成果を報告して、今後の研究の展望について話し合いました。講演はすべて招待講演で、フラーレン C_{60} の存在を予想したこと有名な大澤映二名誉教授(株式会社ナノ炭素研究所)によるナノダイヤモンド合成の報告や、村田靖次郎教授(京都大学)による水内包フラーレンの合成報告、畠山力三名誉教授(東北大大学)による窒素内包フラーレンの合成報告など、刺激的な発表が次々と(計13件)行われました。

このワークショップを企画した新奇ナノカーボン誘導分子系基盤研究開発センターは、東北大大学発のベンチャー企業(イデア・インターナショナル社)が世界に先駆けてリチウムイオン内包フラーレン($Li^+@C_{60}$)の大量合成に成功したことを受けて、東北大大学をナノカーボン研究の国際的な研究拠点にしようという目的で2016年4月に発足したものです。たまたま、鈴木が理化学研究所(仙台支所)に在籍していた期間に、東北大大学とイデア社との共同研究で進めた $Li^+@C_{60}$ のテラヘルツ分光研究が、同センターが関係する最初の研究成果と認められ、招待講演リストに加えて頂きました。講演は、“Low-Frequency Vibration and Rotation of Li^+ Ion Encapsulated in C_{60} Fullerene Investigated by THz Spectroscopy”というタイトルで行いました。

(鈴木 晴)



A group photo of participants on International Workshop on Fundamental and Applied Research of Novel Nanocarbon Derivatives.